

令和 6 年 9 月 28 日現在

機関番号：26201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K12446

研究課題名（和文）精神科訪問看護におけるメタ認知トレーニング（個人用）の介入による効果の検討

研究課題名（英文）The Effectiveness of Metacognitive Training (for Individuals) Intervention in Psychiatric Home Nursing

研究代表者

則包 和也（NORIKANE, KAZUYA）

香川県立保健医療大学・保健医療学部・教授

研究者番号：00342345

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：3名の対象者（地域生活をしながら訪問看護を利用している統合失調症患者）に、メタ認知トレーニング（以下、MCT）を実施した。担当の訪問看護師が、週1回、約20分間、12回実施した。実施後に対象者へ面接した結果、対象者と顔見知りの訪問看護師のMCT実施は緊張を伴わない心理教育につながることを示された。またMCTを実施した訪問看護師3名に面接をした結果、対象者に《言葉の量の増加》《言葉遣いの変化》などの変化が生じることを認識し、対象者との関係性において《会話の内容の深化》と《対象者の深い理解》が高まることを経験していた。これらの事からMCTが統合失調症患者の疾患教育に効果的であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

統合失調症患者（以下、患者）への心理教育は効果的な介入が困難であるケースが多く報告される。しかしメタ認知トレーニング（以下、MCT）を用いた心理教育が、患者にとって楽しく効果的であったことが示唆されたことは、本研究の学術的意義である。また、訪問看護師のMCT実施が、患者の心理教育への心理的負担を軽減することが示唆され、地域包括ケアシステムを踏まえた関わりとして社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Metacognitive training (MCT) was administered to three subjects (schizophrenic patients living in the community and using home nursing care). The home care nurse in charge of the subjects conducted the training once a week for about 20 minutes, 12 times. Interviews with the subjects after the MCT showed that the MCT conducted by a home care nurse who knew the subjects led to tension-free psychoeducation. The results of interviews with the three visiting nurses who implemented MCT showed that they recognized changes in the subject, such as "an increase in the amount of language" and "changes in language use," and experienced an increase in "a deepening of the content of conversation" and "a deeper understanding of the subject" in their relationships with the subject. These findings suggest that MCT is effective in disease education for schizophrenic patients.

研究分野：精神看護

キーワード：統合失調症患者 認知の偏り メタ認知トレーニング 心理教育

精神科訪問看護におけるメタ認知トレーニング（個人用）の介入による効果の検討

香川県立保健医療大学 則包 和也

弘前大学大学院保健学研究科 多喜代 健吾

Key Words

統合失調症患者 認知の偏り メタ認知トレーニング 心理教育

## 1. 研究開始当初の背景

本研究を開始した当時、我が国の精神科病院の平均在院日数は約 280 日であり、他の先進国の約 7～50 日と比較して、あまりにも長期間であった。そのため日本政府は統合失調症患者（以下、患者）を主とする長期入院患者への退院支援や地域生活の支援を主導し、退院促進支援事業に重きを置く体制に舵を切った。

例えば、新規入院患者の 3 カ月以内の退院が求められる診療報酬の改定によって、新規入院患者 40.2 万人中のうち、88%にあたる 35.3 万人が 1 年未満で退院し、うち 60～80% が自宅に戻っていることが報告されている（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 課長補佐 鶴田，2018）。

この報告は退院後の社会資源として、精神科訪問看護の普及と充実が重要であることを示唆しているが、精神科訪問看護が可能な事業所は絶対的に不足しているのが現状である。さらに、精神科訪問看護師の援助が服薬指導に偏っており、患者への心理的な援助に自信が持てないのに、第三者への相談や助言が十分に行われていないという重大な課題が報告されている<sup>1-2)</sup>。このことから我が国では、地域で生活をする患者が精神科訪問看護を希望しても十分なサービスを受けられず、援助を提供する訪問看護師も、試行錯誤のなかで苦心している状況が露わになっていると考える。

## 2. 研究の目的

そこで本研究では、統合失調症患者を対象として開発されたメタ認知トレーニング<sup>3-4)</sup>（以下、MCT）を用いた介入を訪問看護師が実施し、効果の検証を行うと共に、訪問看護の心理教育プログラムとしての有効性について検討することを目的として実施した。

## 3. 研究の方法

精神科訪問看護を利用する統合失調症患者を対象者として、信頼関係が構築されている訪問看護師（以下、研究協力者）が MCT を実施する。MCT 実施後の対象者と研究協力者に対して半構造化面接を実施し、得られた発言を質的に検討する。

2017 年には、A 精神科病院院長と同病院訪問看護ステーションスタッフに本研究の主旨を説明し、協力の同意を得た。その後、同スタッフに MCT の概要、実施方法の説明会を 2 回に分けて行い、MCT の実施について質疑応答の時間をとった。また、同訪問看護ステー

ションの利用者3名に対して、スタッフと研究者が同行訪問して研究に関する説明を行い、本研究への同意を得た。

2018年には、3名の対象者にMCTを実施した。実施は研究協力者（対象者を担当する訪問看護師）が、通常の訪問時間帯に実施した（週1回約20分間、12回）。MCT実施終了後に本研究者が対象者に半構造化面接を行った。面接での対象者の発言から逐語録を作成し、一つの意味内容を一単位として客観的にデータ化を行った。

2019年には、上記データの 카테고리分類を行い、分析を実施した。また研究協力者に対して半構造化面接を実施し、得られた発言をデータ化し、カテゴリ分類と分析・検討を行った。

2020～2023年には、新型コロナウイルスの感染防止を優先したため、MCTの実施が困難となり、新たな対象者の協力を得る事ができなかった。

#### 4.研究成果

##### 1) 対象者の発言データの分析

対象者の発言から抽出された29のデータを分類し、【訪問看護師が実施するメリット】と【変化】の2つの大カテゴリが抽出された。【訪問看護師が実施するメリット】は「やりやすさ」「楽しさ」「安心感」の3つの小カテゴリに分類された。【変化】は「認知」「考え方」「視野」「感情」「対処方法」の5つの小カテゴリに分類された。これらのカテゴリを検討した結果、対象者と顔見知りである訪問看護師の介入は、対象者の対人的な緊張を防ぎ、MCTを楽しみながら受けることにつながると考えられた。またMCTの実施において、信頼関係の構築がMCTの効果を高める可能性が示唆された。

##### 2) 研究協力者の発言データの分析

研究協力者は、対象者に対して実際にMCTを実施した訪問看護師である。訪問看護師3名(女性2名、男性1名)の発言をデータ化し、分析・検討を行った。

その結果、研究協力者は、MCTを使用した介入によって、対象者に《言葉の量の増加》《言葉遣いの変化》《反応・行動の変化》の3つの変化が起こることを認識すると共に、対象者との関係性において、《会話の内容の深化》と《対象者の深い理解》が相乗的に高まることを経験することが明らかになった。それによって、対象者への《自己洞察》や《病識》、および、《症状への対処方法》の促しをスムーズに実施することにつながったことが示唆された。

これらのことから、信頼関係が構築されている精神科訪問看護師のMCTを用いた介入は、訪問看護の利用者にとって、負担が小さく、楽しみながら行うことができる効果的な心理教育であることが明らかになった。また、精神科訪問看護師にとっても、対象者への理解が深まり、病識や対処方法の促しをスムーズにすることが可能である心理教育プログラムであることが示唆された。

#### 引用文献

- 1 ) 林 裕栄 . 精神障害者を援助する訪問看護師の抱える困難 , 日本看護研究学会雑誌 32 (2), 2\_23-2\_34, 2009.
- 2 ) 山下 真裕子, 藪田 歩, 伊関 敏男 . 地域で暮らす精神障がい者の訪問看護師による服薬支援の現状と課題 , 日本精神保健看護学会誌 25 巻 ( 1 ) p.99-107 , 2016.
- 3 ) S Moritz, T Woodward . Metacognitive training in schizophrenia : from basic research to knowledge translation and intervention. Curr Opin Psychiatry 20 : 619-625,2007 .
- 4 ) Moritz S, Andreou C, Schneider BC, Wittekind CE, et al. Sowing the seeds of doubt: a narrative review on metacognitive training in schizophrenia. Clin Psychol Rev 34 : 358-366 , 2014.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 則包和也	4. 巻 第14巻
2. 論文標題 地域で生活する統合失調症者に対するメタ認知トレーニングの効果検討 -心理教育への活用に向けて-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 香川県立保健医療大学雑誌	6. 最初と最後の頁 35 41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 則包和也	4. 巻 22
2. 論文標題 メタ認知トレーニングが私たちにもたらすもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 85-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Kazuya NORIKANE Chieri YASUNAGA
2. 発表標題 Benefits of Metacognitive Training
3. 学会等名 8th Asian CBT Congress（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Kazuya Norikane, Kengo Takidai, Takuma Ishigaki, Manabu Taoka, Yukiko Nagai
2. 発表標題 Effects of metacognitive training Plus conducted by psychiatric department home-visit nurses —analysis of interviews with subjects
3. 学会等名 9th World Congress of Behavioural & Cognitive Therapies（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 則包和也、北野進、富樫剛清、長井麻希江
2. 発表標題 「現聴」に苦しむ患者さんの声を聴く 認知行動療法的アプローチで寄り添うケアを
3. 学会等名 第29回学術集会 日本精神保健看護学会ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 則包和也
2. 発表標題 現場で活かせる認知行動療法を用いたアプローチ方法
3. 学会等名 日本精神科看護協会 富山県支部研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 則包和也
2. 発表標題 精神科病院や地域で働く臨床看護師の認知行動療法実践とスーパーヴィジョンの現状と課題
3. 学会等名 第19回 日本認知療法・認知行動療法学会 自主企画シンポジウム1
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 則包和也
2. 発表標題 統合失調症患者への認知行動療法的介入が奏功した事例-メタ認知トレーニングとホットチャートを用いて-
3. 学会等名 第18回 日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 則包和也
2. 発表標題 幻覚・妄想のある患者さんに、認知行動療法を用いて介入してみよう!
3. 学会等名 看護のための認知行動療法研究会セミナー in 香川
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 則包和也
2. 発表標題 幻聴に苦しむ患者への認知行動療法
3. 学会等名 看護のための認知行動療法研究会セミナー in 弘前
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuya Norikane, Kengo Takidai, Takuma Ishigaki
2. 発表標題 Effects of MCT+ conducted by psychiatric department home-visit nurses -analysis of interviews with subjects
3. 学会等名 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuya Norikane, Takuma Ishigaki
2. 発表標題 Efficacy of Metacognitive Training Plus on People with Schizophrenia Living in the Community
3. 学会等名 21st World Federation of Mental Health World Congress (WFMH) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 則包和也、他2名
2. 発表標題 語りを促す「メタ認知トレーニング」で患者さんの心を軽くしよう！
3. 学会等名 第27回日本精神保健看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 石垣琢磨編 分担執筆者 則包和也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 299
3. 書名 メタ認知トレーニングをはじめよう！	

1. 著者名 石垣琢磨	4. 発行年 2022年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 299
3. 書名 メタ認知トレーニングをはじめよう！ MCTガイドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>一般社団法人MCT-Jネットワーク  <a href="https://mct-j.jp.org/">https://mct-j.jp.org/</a>          一般社団法人 MCT-J Network  <a href="http://mct-j.jp.org/">http://mct-j.jp.org/</a>          MCT J ネットワーク  <a href="http://mct-j.jp.org/">http://mct-j.jp.org/</a></p>
---



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	多喜代 健吾  (TAKIDAI KENGO)  (00782799)	弘前大学・保健学研究科・助手    (11101)	
研究 分 担 者	川添 郁夫  (KAWAZOE IKUO)  (80624741)	青森中央学院大学・看護学部・准教授    (31106)	分担者削除済

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関